



## 先

月号の南川口地区の河口から、井細川に沿って2kmほど北上したあたりからが寺野である。井細川を挟んで南北に細長い地区で、古くは、井細川六ヶ村の一つとされ、戦国期の記録では、トウガ野之村、川内之村、寺野本村から成り立っていたようである。現在、40世帯85人が暮らしている。

地区の方のお話では、「この地区には広田姓、弘田姓が多いので、おそらくこの地を切り拓いた先人たちから脈々と続いてきた姓であろうと思われる」ということであった。また、以前、地区にあるお墓の歴史を調査した人たちがいて、その結果、もともと古いとされたお墓が「中谷家」のお墓であったことから「最初に開拓に入った人は中谷姓だったのかもしれないですね」とも。

寺野地区の産土神(氏神様)は河内神社である。地区にはもう一つ、八坂神社がある。これは、明治初期、寺野村一帯で流行り病が蔓延し、その収束を願った村人が、京都の八坂神社に分祀を願い出たことにより建てられた。年配の方は親しみを込めて「祇園さん」と呼ぶ。さらに、地区には観音堂というお堂がある。このお堂は、元は窪川村にあった禅寺「東光寺」の末寺・昌隆寺(正龍寺と記す地誌もある)である。江戸時代にはすでに退転(廃寺)していたようであるが、本尊であった如意輪観音は保存され、今もお堂で大切に祀られている。実



集会所内で仲良く並んでいる  
「河内神社」「八坂神社」「観音堂」

は、この如意輪観音像と南川口の雲龍寺に祀られている観音菩薩像のお顔立ちがとても似ているのである。もしかすると同じ仏師の作なのかもしれない。

これら三つの神社は、それぞれ別の場所にあったが、現在は、観音堂境内にある集会所の中で仲良く並んでいる。

さて、井細川上流域の山から切り出される良質の桧や杉を川口まで運搬するために、井細川に沿って鉄路が引かれ、トロッコが行き来していたことは先月述べた。もちろん、ここ寺野もその「沿線」であった。地区のご年配の方のお話では「トロッコの1車両では積みきれんくらい、立派なヒノキが、2車両を使って運ばれていくのを何度も見た」ということである。さらに「川口にあった中学校からの帰り、山へ戻る空のトロッコに飛び乗ったりして、よく叱られた! 当時は事故もよくあったからねえ」という思い出も話してくれた。

	適正值(mg/l)	6月14日
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.10
化学的酸素要求量	≤ 10.0	1.21

調査: 大正(吾川)  
資料: 四万十高校自然環境部

### 四万十川の 水質状況

(5月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	8,068	2	男 3	13	6	16
女	8,936	-1	女 3	19	9	10
計	17,004	1	計 6	32	15	26
世帯数	8,483	17	(5月中の届出)			

窪川地域 12,037人 大正地域 2,379人 十和地域 2,588人

お詫びと訂正

6月号の集計日に誤りが、ありました。【誤】5月10日 【正】4月30日 ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

四万十町通信

2019.7月号

Vol.160(毎月10日発行)

●発行/四万十町企画課

●印刷/窪川印刷

〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

☎(0880) 22-3124

FAX(0880) 22-3123

UD FONT  
by MORISAWA

本文など内容の一部に見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。